

新・旅スタイル愛好者

# 「Phuot」が急増中!

近頃、ベトナムの新聞などで目にする「フオット／Phuot」。これはバイク旅をするベトナム人を総称する新語だ。彼らは「自分」と「ベトナムの田舎の魅力」を発見するために旅をしているのだという。

## フオットの人気のワケ

- ★問題解決能力、コミュニケーション能力、チームワーク、自己や仲間を守る能力が身に付く
- ★地方や道中で絶好の景色を発見できる
- ★地方の人たちの貧しい状況を知り、人生観が変わり、前向きな考え方になる。また、自分や自国をもっと大切にしなければいけないことを理解できる
- ★臆病だった性格が改善できる
- ★会社員にとって、旅の最中は一時的に仕事のことを忘れて、リフレッシュできる

## 参加条件

- テント張りや火起こしなどアウトドアスキルがある
- 運転技術やメンテナンスなどバイクに関する知識がある
- コンパスを使用しながら地図が読める

## ファッションポイント

- ケガ防止のため、ジーンズ、革などの丈夫な服を身に着ける
- 日差しが強い時間帯にバイクを運転するため、からだの熱を調整しやすいジャケットを着る
- ベトナム国旗が描かれたTシャツを着用

## 必須アイテム

- 身分証明書 (ID カード、免許証、バイクの保険証書など)
- 長距離旅行に最適なバイク。「ウェーブ／Wave」、「フューチャー／Future」、「ジュピター／Jupiter」が人気
- ヘルメット
- 雨と空気抵抗軽減の性能が抜群の「バーキン／BARKIN」ブランドが人気。安全性が高く、目も守ってくれる
- 雨具
- とくに山岳エリアへの旅は、雨が降ったり止んだりの繰り返し。すぐに着用可能で、耐久性に優れたものを用意。
- グローブ ●ストール
- アウトドアシューズ

## 約 10 日間のバイク旅をする人たち



「フオット／Phuot」とは、「ルオットフオット／Luot Phuot (だらしない)」と「ヴオットクワ／Vuot Qua (越える)」の「ヴオット／Vuot」の発音から、個人旅行によく行く世代といわれる「8X」のベトナム人男性が生み出した造語。「小汚いだしなみ格好で果敢なことを乗り越える」ことを意味し、バイクでベトナム国内を旅行する人々を指す。旅の日数は平均 10 日間で、1日の走行距離は約 100km。1ヶ月に1回行って、「自己成長」と「新しいベトナム発見」を目的としている。※「8X／タムイクス」=1980 年代生まれの人たちのこと

## 情報や旅仲間はネットで見つける

海外に目を向けていた若者たちが、「フオット」の旅スタイルを魅力に感じ、流行につながったといわれている。彼らは 20～30 代前半が中心。専用サイト「Phuot.vn」などで旅情報をはじめ、旅仲間を探している。条件に合うグループが見つければ、自らコンタクトが取れるシステムだ。同サイトでは、各グループの旅スケジュールなどをアップ。道中の写真や近道など、旅で得た情報をシェアできる。より快適な旅を過ごすためには重要な存在。



## お揃いの T シャツを着たり

## 料理を作ったり…連帯意識を持つ

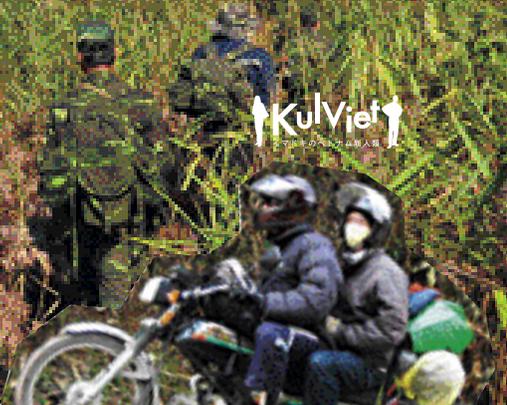
彼らに欠かせないのがお揃いの T シャツ。それも、ベトナムの国旗をモチーフにした T シャツを身に着けて、自国愛をアピールするのだ。

食事は火起こしから調理まで、みんなで仲良く行う。出発前にカップ麺などの非常食を用意するほか、旅先の市場で食材を調達することも楽しんでいる。また長距離走行を利用して、熱を持ったバイクのマフラーで肉を焼くこともあるとか!

## 目的地より、道中が楽しい!

「ハザン (Ha Giang) 省」、「ソンラー (Song La) 省モックチャウ (Moc Chau) 郡」、「ムーカンチャイ (Mu Cang Chai) 郡」、「ビントゥアン (Binh Thuan) 省」は、美観を望めるとして彼らに人気。しかし、フオットたちのだいたい目的地ではなく、知らない道を進んでいく過程のようだ。

山に囲まれたイエンバイ (Yen Bai) 省  
ムーカンチャイ (Mu Cang Chai) 県



ラオカイ (Lao Cai) 省バットサット (Bat Xat) 県で遭遇した雲海



## リーダーは責任重大!

リーダーはスケジュール、ルートなどの計画から、道中の旅費の管理まで、責任重大だ。リーダーの指示のもと、出発前には数回のミーティングを行い、テントや食料などを運ぶ担当が振り分けられる。

グループによってはリーダーは1人ではなく、フオット経験者はスケジュール管理を、道に詳しい人は先導するなど、各自役割を決めている。

## 子どもたちにプレゼント

この旅で欠かせないのが、旅先で出会った子どもたちへのプレゼントだ。撮った写真をその場でプリントして渡すために、プリンターを持参。また、山岳民族の村などに行く場合は、その地では手に入りづらい帽子やシャツ、スカーフ、菓子などを贈る。

フオットの中には、チャリティーとして贈り物を届ける旅を目的としたグループ「トレッキングファン／Trekkingfan」も登場し始めた。彼らは貧しい村に衣服や冬の毛布、本や文具などを届けている。

## 休憩時間は楽器を奏でる

旅に欠かせないアイテムのひとつが、楽器。持ち運びやすい笛やギターを持参して、運転に疲れたときは、美しい景観を目の前にしながら、好きな音楽を奏でて、旅気分を盛り上げる。



## 知識を得て自己成長

バイクの故障、水や食料不足、そして事故や盗難。時として、動物に襲われる可能性もあるフオットの旅。待ち受ける困難を乗り越えるために解決策を見出し、果敢に立ち向かうことで己を知る。

また、地元の人々との触れ合いや、生活に足を踏み入れることで新たなベトナムの魅力に気がかされる。それこそが、この旅の目的であり、一番の喜びなのだ。

## Editor's eye

取材した人たちはみんな、オープンで話が面白かった。「旅は人生、人生は旅である」と誰もが口にし、人生を楽しんでいる姿がまぶしかった。私も「フオット」になって、新しい自分と出会いたい。

## 現地で出会った人の家に宿泊

宿泊はテント、または現地の人の自宅に泊まるようだ。これはその土地を理解するのに最良の方法とされているが、田舎の人たちは見知らぬ人に対して心を開きづらいことがある。ここで試されるのが、コミュニケーション能力と交渉力。フオットから彼らに声をかけるようにして、少しずつ心を通わせていく。生活や貧しさなどの話を聞くこともあれば、都会での出来事などを話すこともあり、お互いを理解し合うのだとか。

